

発行日：2016年6月13日

隣国の台湾を一周

千葉県八千代市 松尾 昌泰

この3月に隣国台湾を一周した。観光ツアーは5日間だが実質3日半の拠点観光だった。台湾の人との出会いは、現地ガイド、観光地、ホテルや店の人だけで、一般の人達との交流がほとんど無く、この点は残念であった。

ルートは下図の様に、成田から台北経由して台中から観光を開始して、日月潭（ニチゲツタン、以降読みは日本語読み）、台南、高雄、そして山脈超えて台東に、それから台湾の東海岸を北上し花蓮（カレン）、太魯閣溪谷（タロコケイコク）、そして特急電車でさらに北上し九份（キュウフン）に立寄り、最後に台北という一周であった。



(1) 台湾の風景は日本とよく似ている

最初にバスでの移動が始まり、バスの窓からは水を張った水田が所々に見えた。台湾では稲は大体2期作とのこと、南の方では3期作も可能だが土地が痩せるのでほとんどないとのこと。

台湾は、日本に近いし、同じように海に囲まれ、また台風もある。

九州より少し小さな島であるが、大きな山脈が南北に背骨のように走っており3000m級の山がある。また、川の流れも日本と同じように速い。

山々は岩肌ではなく緑豊かであり、平地では水田や緑に覆われている。

さらに驚いたことに、都会の街中にはコンビニが沢山あり、それもセブンイレブンとファミリーマートばかりで、店内にはオニギリあり、カウンターの横に「おでん」売り場ありで、日本のコンビニと同じである。

観光地などで独特の建物を見ない限りは、外国だという感じはしない。

学校教育も日本の6-3-3-4制と同じで、国民小学校6年間、国民中学校3年間、高級中学校(高

等学校)3年間までの12年間は義務教育で基本的は無料である。台湾も少子化の傾向にあり、東南アジアなどからの働き手に頼っているとのこと。

何年か前に中国の漢民族が大勢台湾に移住したので、台湾人は中国人とよく似ているのだろうと

思っていた。現地の台湾人の話では、同じ漢民族といっても台湾人と中国人は違うと言う。中国からの観光客の態度や言葉使いなどを見ても、性格の違いははっきり異なると言う。大声でしゃべる、ゴミを捨てる、トイレでも列に並ばず押しつけてく、傍若無人であるなどと、台湾の人は良いイメージを持ってないと云う。

では台湾の人の性格は？と聞くと、親切、フレンドリー、大雑把で細かいことは気にせず、ストレートで率直とのことです。この「ストレートで率直に口に出す」というのが中国人と同じかもしれない。この辺りは我々の年代の日本人とは違うかもしれない。



小雨降る台北市内の街並み

台湾の高速道路に料金所がなく無料かと思ったが、そうではなかった。利用者は「e-TAG」という契約をしてフロントガラスに貼り受けておけば、走行距離に見合った料金を引き落としてくれる。料金所も必要なく、また料金所での混雑も起こらないので利用者には便利がよい。契約していない車の場合は、ナンバープレートを読みとり後で請求書が送られてくる仕組みになっているとのこと、だが、これは逆に厄介な作業になるかもしれない。

(2) 大きな大仏のある宝覺寺（台中）

宝覺寺に近づくと高さ約 30 メートルもある大きな大仏が目に入った。ニコッと微笑む布袋様から幸運が得られるとして、台湾の人には人気スポットとのこと。

下の写真で見ると大仏のへそが目立つ。これは窓になっていて内部から外が見渡せるとのこと。



下の写真は、日本で言う本堂で、木造の古い本堂を保護するため、周りをコンクリート製の建物で覆っている。まだ台湾が日本統治時代であった 1927 年（昭和 2 年）に建立されたお寺でそんなには古くはない。



ここには戦前に台湾で亡くなった日本人の遺骨を集めた日本人墓地もある。そのためか、敷地内には日本語の案内が所々に見られた。

下の写真の石碑には「中部地区 日本人遺骨安置所」と彫られている。戦前台湾中部で死亡した日本人 14,000 人の遺骨が収納されており、その納骨堂の説明文は日本語で次のような趣旨が書かれていた。



終戦後日本人は着の身着のまま祖国に引き揚げ、遺骨を持ち帰る余裕もなかった。家族で台湾に残った野沢六和が、旧陸軍病院の戦病者と思われる埋葬の遺骨を発見し自宅に持ち帰り安置し、その後各地の遺骨を集めた、と。

(3) 日本人の母を持つ鄭成功を祀った延平郡王祠 (エンペイグンオウシ) (台南)

台南にある延平郡王祠は鄭成功(テイセイコウ)の功績を讃えて建てられた「祖先の霊をまつる建物、廟(ビョウ)」である。

鄭成功は、台湾を占領していたオランダ人を(1661年に)破り、台南に政治の中心を置き、法律を定めたり、学校を起こしたりと、台湾に貢献した。日本統治時代には、建物は日本風に改築されたそうだが、第二次世界大戦終戦後には、中華民国政府によって社殿が全て取り壊され、中国建築風に建て替えられている。



鄭成功は、父親の福建省出身の鄭芝龍（テイシリユウ）と母親の日本人の田川マツとの間に、長崎県平戸市で1624年（寛永元年）に生まれたが、7歳の時に父の故郷に移っている。（田川マツは江戸時代の肥前国平戸藩士の娘）。

（4）蓮池潭（レンチタン）にある龍虎塔

「蓮池潭」は大きな池で、湖畔には中国風の独特の建物がいくつもあり、それが湖の水面に映り、神秘的な風景であった。

池の南側には、下の写真のような派手な龍虎塔があり、多くの観光客でごった返していた。



龍虎塔は2つの塔と2つのトンネルの出入口があり、その1つは龍の形をした入口で、他1つは虎の形をした出口です。

中国では、龍の形をしたトンネルの口の部分から入り虎の口の部分から出ると悪運を幸運に変えることができると言われている。

この塔に登ると、下の写真のように（ビルも目立つが）寺院や中国風の建物が見渡せます。



(5) 台湾は外食文化

台湾では、朝から屋台のような店が込み合っている。朝食は外で食べるのは一般的とのこと。

主食は、日本と同じで米のご飯であるが、このご飯の上に何かを載せて丼物にする場合が多い。日本から往復とも台湾の航空機だったが、機内食は2回とも丼物であった（容器はどんぶりではないが）。



上の写真は、夕方の市場であるが、まず店先で材料を選び、それを料理してもらって、店の奥で食べるようになっている。

ツアーでの食事は、朝はバイキングであったが、昼食も夕食も回転する円卓での中華料理であった。味付けは台湾風なのか、ちょっと癖があった。

台湾の人々は、元々暖かいものしか食べないと云われているが、日本統治時代に日本人が持ち込んだ「弁当」が受け入れられ、「便当」（弁当ではなく便当）として引き継がれている。コンビニなどでも「便当」が売られている。

特急電車での昼食は駅弁だとのことで日本の駅弁のように「その地の旨いもの」を期待していたが、蓋を開けると、なんと 200g 近くありそうな「超でかい鶏肉」が載せられた「肉丼」、あまりにも日本の駅弁と異なりびっくり、期待外れでもあった。何と云っても、食事は日本が一番だと思ってしまう。

以上